

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475101598		
法人名	社会福祉法人 青葉福祉会		
事業所名	青葉の風		
所在地	仙台市青葉区荒巻字三居沢1-16		
自己評価作成日	平成 24年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達の理念として職員全員がお年寄りの尊厳と習慣をお守りすることを掲げています。また三つの文化をお守りしています。「礼儀正しい文化」「物を大切にす文化」「忍耐強い文化」

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://yell.hello-net.info/kouhyou/">http://yell.hello-net.info/kouhyou/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成24年11月14日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の裏側に広瀬川の瀬音が聞こえる自然環境の豊かな場所である。屋上からは仙台平野が一望できる。隣り合わせに同法人の事業所、デイサービスセンター・短期入所生活介護アルテイル青葉・介護予防短期入所療養介護の光陽ホームがあり、避難訓練やレクリエーション等良い連携が図られている。又3か所の保育園(青葉・栗生・荒井)の園児との世代間交流があり、入居者の楽しみの一つになっている。家族のアンケートから年に数回のホームレストランの開催や当日出勤の職員の顔写真掲示等が事業計画に活かされている。職員の寄り添う時間を第一に考え、入居者のサービスに最大限向けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム 青葉の風 )「ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域住民との交流も含め、事業所独自の理念を掲げ、職員全員が理解し、実践の場で活かされている。会議の場でも理念を念頭において話し合いをしている。	事業所基本理念「尊厳と習慣」の基に三つの文化「礼儀正しい文化・物を大切にする文化・忍耐強い文化」をその他、ホームの職員で決めた介護理念を掲げ入居者との信頼関係に努力をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣は他事業所が主であるが、納涼大会餅つきへの参加や日常的な交流も行なっている。(茶話会、絵の交換)地域でのお祭りにも参加している。保育園児との交流もある。	地域の祭りには積極的に参加、すずめ踊り、納涼大会や餅つき等近隣の他の事業所と合同で交流が行われている。又保育園児の来訪や、近隣施設の茶話会や絵の交換等の交流も日常的に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会、運営推進会議を開催し、取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、主治医、地域包括支援センター、町内会、民生委員の方に参加して頂いている。事業所からの報告(近況状況、実地指導、外部評価、アンケート実施等)参加者からの意見交換を行っている。	メハハは地域包括支援センター職員、民生委員、家族代表、町内会、主治医、事業所所長、管理者である。会議は2か月に一度開催し、入居者の生活の状況、家族アンケートの評価、行事内容等が活発に話し合われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実地指導の場で、事業所の実情や取り組みを報告している。更に随時不明な点があれば相談している。	生活保護等の対応相談。又、ケアの事例等で市に相談、介護相談員の受け入れも行っている。地域包括支援センターからもケアについての相談等協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的研修を行なっている。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全職員が研修を重ね身体拘束の弊害を熟知し、常に自分に置き換え行為の良しあしを考えながら、ケアに取り組んでいる。利用者の外出傾向を把握し、帰りたい願望は何気なく寄添い静かに対応している。近隣の事業所にも理解してもらい協力関係にある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的研修を行なっている。虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修を行なっている。虐待防止に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解、納得を得られるよう努めている。気軽に相談できる雰囲気心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族会を開催している。また意見箱を設置している。	家族会を年3回実施、敬老の日、花見時期、夏祭り時期、芋煮会時期に食事を囲みながら家族の意見要望を聴いている。又年一回のアンケートを活用し、要望や不満を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業計画作成時に職員全員から意見をもらい反映させている。	月に2回の「文(手紙)の日」を設けて職員の意見を聞いている。ホームレストラン年2回の実施もここで決められた。毎年全職員からアンケートを取り行事、研修等運営に関する件も含め事業計画に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課により取り組みを行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の実施や併設施設の専門職員の方からの指導、外部研修で学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	仙台市内のグループホーム協議会の研修、交流(交換研修等)や仙台市内開催の研修に参加し、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を築くことから行なっている。1対1のコミュニケーションの場を意識して作り(寄り添いケア)意向を汲み取れるよう努力している。話しやすい環境作り心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会の際や、電話等によって話しを聞く機会を設けている。職員全員がより親身になって接することで相談しやすい環境作り、信頼関係作りも努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上司、管理者と相談しながら、柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ケアされるケアを念頭に、職員は本人が本人らしく生活できる距離感を大切にしながら支援している。また家事や文化などを話しの中から教えて頂き、共に楽しみながらも支え合える関係となるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況状況、行事のお誘い等により面会や行事に来て頂けるよう働きかけ、実際の状況をお伝えできるよう努めている。状況が変化した際には一緒に支えていける関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	情報を元に出る限り今までの環境が保たれるよう努めている。ケース担当が家族等と相談し外出や交流が保てるよう支援している。また、電話、手紙のやり取りを支援している。	センター方式の生活歴情報から、関係継続できるように支援している。デパート、喫茶店、墓参等、又会話中の「ぬ」の言葉の中から、思いでの福島の沼沢湖に気付き遠出し喜ばれた話があった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の個性や能力を踏まえ、円滑な人間関係が保たれるようにしている。会議等において話合いの機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も気兼ねなく相談をして頂けるよう声をかけている。退所後も立ち寄って頂けた家族もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別や日常会話から意見を把握するよう努めている。生活歴等を参考に本人本位となるよう気をつけている。ケアプランにも反映している。	寄り添う時間を最大限に長くとり表情やしぐさから本人の思い、希望、意向を汲み取り支援している。生活歴から利用者本位になるよう、何がしたいのかを把握しケアプランに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し情報収集を定期的に行い把握している。(本人、家族)また日常生活の会話の中から意向を汲み取れるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状況が把握されやすい記録の工夫に努めている。職員全員が現状を把握し対応の統一が出来るよう定期的話し合いを設けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントにおいては計画作成担当者が主となり実施。各担当からも詳しい情報を確認し作成している。家族からも定期的に面会、電話にて意向を確認している。書面や記録も残している。月ごとにモニタリングを行い、年に2回は見直しを行なっている。	本人や家族意向をふまえて作成している。月毎の評価と年二回の見直しを行い家族の同意を得ている。日々の状況をモニタリングし本人家族の意向を把握し話し合い作成し、ケアプランは実施時間、回数、気付きが一目でわかる記録になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の見直しに繋がるよう、個別記録の様式を工夫するなど情報を共有し、意識しながらサービス提供できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望を出来る限り実施している。柔軟な支援を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域福祉施設等と協力しながら支援している。また定期的に余暇活動のボランティアの方に来て頂いている。(アニマルセラピー、フラワーセラピー、園児慰問)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	係りつけ医による月1回の往診や受診、緊急時等で相談したい事があれば随時連絡が取れる体制が整っている。受診後は家族への報告、記録も残している。	かかりつけ医を基本に月一度の往診、受診を職員が付き添い、受診の結果は記録の保存と家族へ報告している。バックアップ体制もアルテイル青葉の看護ステーション24時間体制が入居者の安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バックアップ施設であるアルテイル青葉、契約している訪問看護にて健康状態の相談、看護を受けている。24時間オンコール体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の状況となった場合には、家族と共に職員が付き添い、医師の説明時に立会いサポートするようにしている。病院関係者にも利用者の普段の生活状況を説明し、家族の希望に沿いながら早期退院できるように努めるよう働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見取りに関する意向を文書にて確認している。本人、家族の思いに沿ったケアを心がけている。係りつけ医と連携を取りながら、今後の変化に備え検討や準備を行なっている。	重度化、終末期の対応方針書、意志確認書、同意書が整備されている。家族の同意も得ている。協力医療機関の受け入れ体制も確立されている。訪問時に昨夜看取った入居者の儀式が執り行われていた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	アルテイル青葉、訪問看護、係りつけ医と相談しながら、対処法について検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルに沿って併設施設と合同避難訓練を実施している。(地域住民にも参加をして頂いている。)	消防署立会いで年2回実施。隣接特養老人ホーム、デイサービスと合同で実施し、近隣の自立支援の住民の協力も得られる。震災後備蓄品、備蓄量も充実。隣り施設の仕切壁は非常時には破り避難可能な構造である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人を尊重した呼び方をしている。人前で恥ずかしい思いをさせないよう声かけの配慮をしている。居室の出入り、トイレの出入りの際は確認してから行っている。(尊厳)	本人を尊重した呼び名で食事、トイレ、入浴をゆっくり静かに声がけしている。人前で恥ずかしい思いをさせないトイレの誘導。お年寄りの過ごした時代の習慣の尊重「礼儀・物を大切・忍耐強」を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その時に訴える言葉と、もう一方で本当に言わんとしている意志を汲み取りながら、その方に伝わる方法でコミュニケーションを取っている。また本人のペースを守り、納得されるタイミングを確認している。(自己決定)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況を把握した上で、希望に沿った活動が出来るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段から身だしなみを整えるよ配慮している。行事、外出時には身だしなみやお洒落に気をつけている。いつでも化粧品を取り揃えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の状況に応じ、対応している。(バックアップ施設の栄養士とも相談している)一緒に作業することで会話も増え、充実感を得て頂けるよう心がけている。食事時間を気にせず、団欒の時間を大切にしている。	入居者の力を活かし、調理、盛り付け、片付けを職員と一緒にしている。栄養士の協力で栄養のバランスの良いメニューを工夫している。職員と共に和やかな雰囲気でお食卓を囲む。ホームレストランも年2回実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表の活用にて一日の食事量、水分量の把握をしている。普通食が摂取困難な方には刻み食などの食事形態の工夫、代替食品の提供を行っている。(好みのもの)食事の楽しみを損なわないよう声かけを実施。介助するのではなく、介添えを行うようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施。必要に応じてその都度実施。協力歯科とも連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を用い排泄パターンを把握している。サインを見逃さず、誘導をしている。おむつ外しを試みている。	排泄のパターンを把握しサインを見逃さず誘導している。オムツを使用しない試みをしている。入居者に寄添う時間を最大限取る事により可能である様支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らないよう、食事(食材)の工夫、水分摂取の促しなどを行なっている。トイレ使用時にはマッサージを行なっている。係りつけ医との相談も行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人1人の習慣やタイミングを大切にしながら行なっている。季節感も取り入れている。(菖蒲湯など)夜間浴も対応可	一人ひとりの生活習慣やタイミングを大切に、毎日の入浴、夜間浴も職員2名体制で可能にしている。菖蒲湯等季節感を取り入れ入浴を楽しむ工夫もある。浴室の床暖房、滑り止めが配慮され安心して入浴できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の起床時間に配慮し、日中の適度な活動を提供し、安眠に繋がるように働きかけている。疲れやすい方には一定の休息が取れるようにしている。眠れない方には寄り添い対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	周知事項として職員がいつでも閲覧できるようケース記録に種類、用法を記録しており、支援と確認作業に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人にあった支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力も頂きながら、出来る限り実施している。生まれ故郷の福島への外出、馴染みの店への外出、墓参り、家族の展示見学へ外出など個別ケアを実施している。週2回は利用者と一緒に外出(買物)支援を行なっている。普段は散歩、ベランダにて外気浴を行なっている。	日常的に施設内の散歩、屋上の菜園、テラスでの日光浴の支援をしている。食材買物(水・火)、馴染の喫茶店、デパート、墓参り、家族の展示見学、等々個々の希望に沿った同行の支援を行っている。生まれ故郷の福島への遠出の外出支援は本人家族ともに感謝(アンケート)された。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	主に買物の機会を通じて支援している。希望に応じていつでも使用できるようにしている。家族へも出納表を提出し、確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に行なっている。2ヶ月に一回(写真を同封した手紙を送っている。電話での支援も行なっている。)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて装飾を行なっている。温度、湿度計を設置して随時対応している。定期的に換気も行なっている。居間には和室など馴染みのものが配慮してある。	居間、食堂は陽が差し込み明るく換気も良く空気のよどみがなく快適である。園児の入居者への感謝の絵が貼られていた。神棚が置かれ礼儀正しい文化の象徴が感じられた。床暖房が完備され冬季は居心地良く過ごせる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には和室、ソファなどもあり、好きな場所で過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みのある家具の持込を積極的に取り入れている。仏壇を持ち込んで頂き、手を合わせる機会を設け、習慣となるよう支援している。	収納品名が貼られた馴染の筆筒、昔から使っていた書斎机、仏壇も持ち込まれて朝晩手を合わせている利用者もいる。居室の出入り口は縦型手すり、一休み腰かけが置かれ、出入りし易い工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子の方でも使用できるスペースの広いトイレやシンク、洗面台、アイランドキッチンを設置している。建物内部には使いやすさを考えた手すりを設置している。1人1人の出来ることを把握し、意欲を持って取り組んで頂けるよう対応、働きかけに努めている。		